



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。

また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



「聞く」ことも福祉

平成28年10月22日に開催された本市社会福祉大会において、小・中学生を対象に行った「児童生徒福祉作文コンクール」の最優秀賞と、小・中学生の福祉体験の発表が行われました。

いずれの発表も、子ども達が素直に感じたことが、子どもらしい言葉で綴られていて、私たち大人の心に響きました。

子ども達は、車椅子体験をしたり、認知症サポーター養成講座を受講したり、老人ホームにボランティアに行ったりと、実際に経験したことで「福祉」とは、周りの人のために、自分ができていることをやることなんだと気づき、自分ができていることは何があるだろうと、いろいろ考えてくれたようです。

ほんの一部を紹介します。

- 人は一人では生きられません。そして、介護も一人ではできません。みんなで助け合うこと、それが何よりも大切です。身近に介護を必要とする人がいなくても、できることが必ず何かあるはず。私はまず登下校時にあいさつすることから始めようと思います。(長久手中女子生徒)



- 老人ホームに慰問に行って、お年寄りと一緒に歌を歌ったり、クイズをしたりしました。一人のおじいさんが、「来てくれてありがとう。」と涙を流してくれました。私は驚いて、その涙を聞くと、おじいさんは「家族と離れて、知らない人の中で暮らして寂しい。」と話してくれました。私は、ただ聞いていただけだったけど、そのおじいさんは、最後に「聞いてくれてありがとう。すっきりしたよ。」と笑ってくれました。

話を聞くだけでも、誰かを楽な気持ちにすることができるのだと不思議な気持ちになりました。「聞く」ということも福祉なんだと思いました。(南小学校男児)

- 私は、おじいちゃん、おばあちゃんと暮らしたことがないので、老人ホームに行ったとき、どうしたらいいのかわかりませんでした。一人のおばあさんから、「名前は?」「何小学校?」「何年生なの?」と30分くらいの間に、何度も同じ質問をされました。そのとき、以前に受けた認知症サポーター養成講座で、認知症の人は、少し前のことが思い出せないと聞いたのを思い出しました。私にとっては同じ質問でも、このおばあさんにとっては、初めての質問で、私に関心を持ってきているんだと思い、何度も丁寧に答えました。(東小学校女児)

※掲載した文章は、作文や発表の一部を抜粋して掲載しています。

児童生徒福祉作文コンクール優秀作品集は、市社会福祉協議会(福祉の家内)で配布しています(数に限りがあります)。

表紙の写真もう一枚

今月号の特集で、リニモに乗って撮影に出かけました。先頭車両に乗っていると、きれいな街並みから自然豊かな風景まで、様々な景色を楽しむことができました。普段過ごしている中では気にとめない長久手の景色を、一度リニモに乗りながら、眺めてみてはいかがでしょうか。

スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!



「ながくて」で検索 ▶ ダウンロード

